

にほん 日本のマナー

URL : <https://youtu.be/Q3JzihuQ5oM>

こんかい にほん まな にほんご べんきょう
今回は「日本のマナー」を学びながら、日本語を勉強しましょう。
この動画は、ぜんはん ぜんはん すこ かんじ
前半は少しゆっくりのスピードで、漢字には「ふりがな」があり
ます。
こうはん すこ はや かんじ がくしゅう やくだ
後半は少しだけ速くなり、漢字に「ふりがな」はありません。学習にお役立て
ください。

じこ しょうかい ■自己紹介

ぼく なまえ はしもと ちゅうがくさんねんせい かぞく ごにん く
僕の名前は、橋本たけるです。中学三年生です。家族5人で暮らしています。
がっこう いくご けいご けいご まな ぶ かつどう たっきゅう ぶ はい
学校では国語、数学、理科、英語などを学んでいます。部活動は卓球部に入っ
ていて、まいにちたの れんしゅう
ていて、毎日楽しく練習しています。

ちい ころ そと かえ くつ ぬ くつ
小さい頃、外から帰ってきて、靴をバラバラに脱いでいると、「ちゃんと靴を
揃えなさい」と母に叱られました。でも、その時の僕は、「どうしてそんなこ
とで怒るんだろう」とおもっていました。
しょくじ とき て あ わす い
食事の時も、手を合わせるのを忘れると、「ちゃんと“いただきます”って言
いなさい」と母に言われました。
ころ ぼく こうどう おも
その頃の僕は、それらの行動を「ただのルール」だと思っていました。
いま けいりゅう おも
でも今では、「きちんと理由があることだったんだ」と思えるようになりました。
た。

ひ ぼく がいこく き てんこうせい はい こ にほんご じょう
ある日、僕のクラスに外国から来た転校生が入りました。その子は日本語が上
手で、いっしょうけんめいはな
手で、一生懸命話そうとしていました。
とき にほん た まえ て あ き ぼく
ある時、「どうして日本では食べる前に手を合わせるの？」と聞かれて、僕は
うまく ことた
うまく答えることができませんでした。

にほん う にほん そだ ぼく にほん ぶんか し
日本で生まれて、日本で育ってきたのに、僕は日本の文化のことをあまり知ら
なかったんだと気づきました。マナーや決まりは、ただ守るだけのものじゃな
くて、その意味を考えることが大切なんだと思うようになりました。

それから僕は、日常の中で見つけた日本のマナーについて、少しずつ調べたり、大人に聞いたりしてきました。昔からの意味や、人を思いやる気持ちがこめられていることが分かってきて、もっと知りたくなりました。

今日は、僕が不思議に思った日本のマナーについて話します。

■箸の使い方

僕は、箸の使い方について、よく母に注意されました。

「箸を立てたらだめ」と言われても、どうしていけないのか分からないまま、「だめなものだめ」と思っていました。

ある日、学校で「さし箸」や「わたし箸」など、やってはいけない箸の使い方について教わりました。

さし箸は、箸で食べ物をさして食べること。わたし箸は、食事の途中で箸をお皿の上に置いてしまうこと。

どちらもマナーとして良くないとされています。

先生が言っていたのは、箸の使い方には相手への思いやりが表れる、ということでした。

たとえば、「箸渡し」という箸から箸へ物を渡す動作は、葬式のときに使う作法です。

日本の葬式では、亡くなった人を火葬したあと、家族が箸を使って骨を骨つぼに入れます。そのとき、箸から箸へと骨を渡すことがあります。この作法はとても特別で、大切な意味があります。

だからこそ、ふつうの食事の場で同じようなことをすると、「よくない」「ふさわしくない」と思われるのです。

僕はその話を聞いて、驚きました。何気なくやっていたことが、相手を不快にさせるかもしれないと思うと、マナーを学ぶことは大事だと思いました。

うつくしい食方は、周りの人に気持ちよく食事をしてもらうための優しさだと、今は思えるようになりました。

■家の中では靴を脱ぐ

日本では、家に入る時に靴を脱ぐのが普通です。僕の家も、玄関で靴を脱いで、そろえてから部屋に入ります。

昔の日本には、「土間」という土の場所と、「畳」というやわらかい床がありました。畳の上では靴を脱いで生活するのが当たり前で、座ったり寝転んだりするために、清潔さが大事にされてきました。だから、外の汚れを家に持ちこまないために、玄関で靴を脱ぐ習慣が生まれました。

学校では教室に入る前に室内用の靴「上履き」に履きかえます。土足で入ることはありません。

日本では「室内を清潔に保つ」ことが大切にされていて、それが日常のマナーになっています。そして、脱いだ靴を揃えることも大切なマナーです。

ある日、僕が靴をバラバラに脱いだまま家に入った時、母に「靴はきちんとそろえなさい」と注意されました。その時の僕は、「めんどくさいな」と思って、あまり気にしませんでした。でも、別の日、学校から帰ってくると、兄の友達が家に遊びに来ていて、玄関に脱いだ靴がバラバラに置かれていました。それを見た瞬間、「なんかイヤだな」と感じました。自分が通る場所なのに、乱れていて気持ちよくありませんでした。

その時、母が言っていた「次に使う人のことを考えなさい」という言葉の意味が、はじめてわかりました。マナーは、自分のためではなく誰かのためにすることなんだと、気づきました。

マナーには理由があることを知ってから、「どうして？」と思っていたことが「なるほど」に変わってきました。

■ 電車に乗る時のマナー

電車に乗る時、僕が気をつけているマナーをいくつか紹介します。
どれも、「絶対に守らないといけないルール」ではないけれど、みんなが気持ちよく使うために大切だと思っています。

① 降りる人を優先する

電車に乗る時は、自分が先に入ろうとしないで、まず降りる人を待ちます。
出口の前でよけて立つと、降りる人がスムーズに出られます。お互いにゆずり合うことで、全体の流れも良くなります。

② 車内の奥につめて立つ

ドアの近くに立ったままだと、他の人が乗れなくなってしまいます。
できるだけ車内の奥までつめて立つと、もっと多くの人に乗れますし、乗り降りもしやすくなります。

③ 優先座席をゆずる

けがをしている人や高齢の方、妊娠している方など、席を必要としている人に気づいたら、すすんでゆずるようにしています。
見た目では分からないこともあるので、「大丈夫かな」と思ったら声をかけるのも大切だと思います。

④ 一人でも多くの人が座れるようにする

荷物をとなりの席に置いたり、無理に足を広げたりしないように気をつけています。
少しの気づかいで、たくさんの人が快適に過ごせるようになります。

⑤ 荷物がじゃまにならないようにする

リュックを背中に背負ったままだと、場所をとってしまいます。混んでいる時は前にかかえるか、手に持つようにしています。
他の人のスペースをうばわないように意識しています。

ろく けいたい でんわ つうわ ひか
⑥ 携帯電話での通話は控える

でんしゃ なか つうわ おも こえ ひび
電車の中での通話は、思っているよりも声が響きます。
まわりの人の迷惑になるので、急ぎの用事がないかぎり、電話はしないように
しています。どうしても必要な時は、小聲で話すようにしましょう。

なな おんりょう ちゅうい
⑦ イヤホンやヘッドホンの音量に注意する

おんがく き とお おと き
音楽を聞く時、音がもれていないか気をつけています。
となりの人に聞こえてしまうと、不快に感じる人もいます。たまにボリューム
を確認するようにしています。

はち おお こえ はな
⑧ 大きな声で話さない

とも の こえ おお
友だちといっしょに乗っていると、つい声が大きくなってしまうことがありま
す。
でも、電車の中は静かな場所なので、声の大きさには気をつけています。

きゅう いんしょく ひか
⑨ 飲食はできるだけ控える

つうきんでんしゃ ざいらいせん いんしょく いっぱんてき
通勤電車などの在来線では、飲食をしないのが一般的です。
食べ物のにおいが広がると、まわりの人にとって迷惑になることがあります。
どうしても何かを飲みたい時は、水やお茶などにしています。食事は電車の中
ではなく、ほかの場所ですましょう。

にほん しんかんせん ちようきより とっきゅうでんしゃ いんしょく えき か
ただし、日本の新幹線や長距離の特急電車では、飲食ができます。駅で買った
「駅弁」を食べる人も多く、座ってゆっくり食べられます。でも、においが強
いものや音が出る食べものは、まわりの人に気をつけて控えましょう。ゴミ
も自分で片づけるのがマナーです。

こうしたマナーは、「ルールだから」ではなく、まわりの人の気持ちを考える
ことが大切です。
すこ きち こち こうかん
少しの気づかいが、みんなにとって心地よい空間につながります。

■ おじぎの大切さ

日本では、あいさつのときに「おじぎ」をするのが当たり前です。
たとえば、「おはようございます」「こんにちは」「ありがとうございます」と言いながら、自然に頭を下げます。

学校でも、授業の始まりと終わりに、先生に向かって、全員で「お願いします」「ありがとうございました」とあいさつをして、頭を下げます。
これは、小さいころからずっと続いている習慣です。でも、これも外国の人から見ると、とても特別な文化だと聞いたことがあります。

日本のおじぎはただの動作ではありません。「相手を大切に思う気持ち」をしずかに伝える方法です。

言葉がなくても、おじぎだけで気持ちが伝わることもあります。たとえば、うまくお礼が言えないときでも、しっかりおじぎをすると、相手は「ありがとう」という気持ちを感じとってくれます。

外国では、握手やハグなどで気持ちを伝えることが多いですが、日本では、おじぎで静かに心を伝えるのが特徴です。

おじぎは日本人にとってとても大切なマナーです。

日本語を学ぶときは、言葉だけでなく、おじぎの意味や使い方もいっしょに知っておくと、もっと深く日本の文化を理解できます。

■ 学校で教わった「目に見えないマナー」

学校では、勉強だけでなく、マナーについてもたくさん教わります。

でも、その多くは「こうしなさい」ときびしく言われるものではありません。
「こうすると、みんなが気持ちよくすごせるよ」という、目に見えないやさしさのようなものだと思います。

たとえば、掃除の時間。僕の学校では、みんながだまって掃除をします。話をせず、ていねいに床をふいたり、机を並べたりします。

「なぜ話^{はな}してはいけないの？」と思^{おも}っていた時^じ期^きもありましたが、今^{いま}は、静^{しず}かに集^{しゅう}中^{ちゅう}する時^じ間^{かん}があることで心^{こころ}が落^{おち}ち着^つくのだと思^{かん}じています。

時^じ間^{かん}を守^{まも}ることも、大^{たい}切^{せつ}なマナーです。授^{じゅ}業^{ぎょう}が始^{はじ}まる前^{まえ}にきちんと席^{せき}に着^ついてい^いると、先^{せん}生^{せい}も安^{あん}心^{しん}して授^{じゅ}業^{ぎょう}を始^{はじ}められま^すす。
誰^{だれ}かが遅^{おく}れてくると、授^{じゅ}業^{ぎょう}が止^とまってしまうこともありま^すす。「少^{すこ}しぐらいいい^いだろう」と思^{おも}うことでも、まわ^{めい}りに迷^い惑^{わく}をかけることがありま^すす。

ほかに、人^{ひと}の物^{もの}を勝^かて手^てにさわらないこと。友^{とも}だちの筆^ふ箱^{でばこ}やノ^つー^{くえ}ト^{うえ}が机^{うえ}の上^{うへ}にあ^あっても、か^かつてに手^てに取^とったりしま^しま^せん。
これ^これは、相^あい^いて手^ての持^もち物^{もの}を大^{たい}切^{せつ}にする気^き持^もちのあ^あら^らわ^われ^れだと思^{おも}いま^すす。

こ^こう^うしたマナーは、目^めには見^みえま^ませ^せん。

でも、た^たと^とえ^えば誰^{だれ}かが静^{しず}かに掃^{そう}除^じをしてい^いたり、ち^ちゃ^ゃん^んと時^じ間^{かん}を守^{まも}ってい^いたり
す^すると、自^し然^{ぜん}と「す^すご^ごい^いな」と感^{かん}じま^ます。
そ^そして、自^じ分^{ぶん}もそ^そう^うし^した^たい^いと思^{おも}え^える^るよ^よう^うにな^なり^りま^ます。

が^がっ^っこ^こう^う お^おそ^そ 学^が校^{こう}で教^おわ^そったマナーは、社^{しゃ}会^{かい}に出^でてか^から^らもき^きつ^つと役^{やく}に立^たつと思^{おも}いま^ます。

だ^だれ^れか^かのこ^ことを考^{かん}え^えて行^{こう}動^{どう}するこ^こと。そ^それ^れが、マ^まナーの本^{ほん}当^{とう}の意^い味^みだ^だと、僕^{ぼく}は
思^{おも}ていま^ます。

■僕が見つけたおもしろいマナー

日本には、ふだん何気なくしているけれど、よく考えると「おもしろいな」と思うマナーがいくつかあります。

外国の人に話すと、「えっ、そうなの？」とおどろかれることも多いです。そんな「ちょっと変わったマナー」についてお話しします。

ひとつめは、「プレゼントをすぐに開けない」ことです。

日本では、プレゼントをもらっても、すぐその場で開けるのはあまりよくないとされています。

「気に入らなかった時に、表情に出ると相手がかたがたかもしれない」「すぐに開けると、欲しそうに見えてしまう」という考え方があります。

だから僕も、もらった時は「ありがとうございます」と言って、あとで静かに開けるようにしています。

ふたつめは、「お椀を手にとって食べる」ことです。

たとえば、味噌汁やごはんは、テーブルに置いたままではなく、手で持って食べるのがマナーです。

外国では、お皿やスープボウルを持ち上げるのは失礼と思われる国もあるので、これは文化のちがいだと感じました。

みつめは、「香水をつけすぎない」ことです。

日本では、においにとっても敏感な人が多く、香水や整髪料などの強いにおいはマナー違反と思われることがあります。

とくに満員電車やオフィスでは「無香」が好まれる傾向です。

だから、日本では香水を使うとしても、ほんの少しだけにするか、まったく使わない人も多いです。

かわりに、清潔にして、においをなくす努力（たとえば汗をふく、制汗スプレーを使うなど）を大切にしています。

よつつめは、「トイレットペーパーの先が三角に折られている」ことです。

ホテルやきれいなトイレでよく見かけます。これは「掃除が終わっていますよ」というサインです。

ていねいに見えても、トイレを使ったあとに自分で三角に折りなおす必要はありません。これは清掃する人の仕事だからです。

小さなことですが、こうした気づかいが日本らしいなと思いました。

こうして見ると、日本のマナーには「思いやり」や「気づかい」がたくさんつまっています。

どれも「これが正しい！」というわけではありませんが、「どうすれば相手が気持ちよくすごせるか」を考えるヒントになります。

マナーを知ると、日本の生活がもっとおもしろく見えてきます。そして、外国のマナーとくらべてみると、おたがいの文化がもっと近くに感じられるようになると思います。

■マナーって何のためにあるの？

マナーという言葉を知ると、「ルール」や「決まりごと」のように感じるかもしれません。

たしかに、電車では静かにする、食事のときは口を閉じて食べる、あいさつをするときはおじぎをするなど、日本にはたくさんのマナーがあります。でも、マナーはだれかを怒るためのルールではありません。本当の目的は、おたがいが気持ちよくすごすための「思いやりのかたち」です。

たとえば、大きな音で話すと、まわりの人がびっくりしてしまうかもしれません。くつをぬいだあとにそのままにしておくと、家の人「散らかっていて不快だな」と思うかもしれません。

そうならないように、「こうしたほうが、まわりの人がうれしいよ」という考えからマナーが生まれたのです。

日本では、とくに「まわりに^き気をつかう」ことが^{たいせつ}大切にされています。
だからマナーも、「自分^{じぶん}がどうするか」ではなく、「相手^{あいて}がどう^{かん}感じるか」を
考えることが大切です。

マナーを知ることは、日本^{にほん}の文化^{ぶんか}をもっと深く^{ふか}知ることでもあります。そして、
自分^{じぶん}もまわり^{ひと}の人も、やさしい^{きも}気持ちになれる方法^{ほうほう}のひとつだと、私^{わたし}は^{おも}います。

「日本^{にほん}のマナー」はいかがでしたか。
コメント欄^{らん}から感想^{かんそう}をみんなに^{おし}教えてください。

それでは、また別^{べつ}の動画^{どうが}でお会^あいしましょう。



Japanese-listening-SUSHI

